

平成 29 年度 国際関係論専攻 研究助成金  
調査・研究報告書

【受給者】 B1766614 白山彩

【所属】 グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻博士前期課程 1 年

【研究課題】 ハワイの戦後帰米—彼らが日本とアメリカへ与えた影響

### 調査背景・先行研究

本研究では、日系アメリカ人二世の中でも親の都合や日本で教育を受けるために一定期間日本に住み、その後アメリカへ帰って来た帰米二世に焦点を当てる。帰米の先行研究は戦前・戦中また本土に関する研究が中心である。例えば、東(2012)は帰米が戦前日本で受けた学校教育の違いについて論じており、帰米を集団として見ており帰米がアメリカに帰った後は見ていない。戦中の研究では、戦前にアメリカへ帰って来た「戦前帰米」が収容所に入れられたことに着目する研究が主である。帰米は収容所内で親日派・親米派に分かれた。また、日系アメリカ人のアメリカへの忠誠を問いた忠誠登録では、多くの帰米は申請を拒否し、そのような人々はツールレイク隔離センターに送られた (デイ 2010)。これらの戦中の研究は帰米とアメリカに忠誠を示した二世と比べ、帰米を特殊な存在として見ている。戦後に帰って来た「戦後帰米」の例としては、広島・長崎で原爆を経験しアメリカへ帰って来た被爆者研究が挙げられる (Sodei 1998)。また、帰米はアメリカに帰った後、日本での経験があるため他の二世や日系人社会から疎外されていた (Takahashi:1997:83)。そして、これらの研究は本土の帰米のみを語っており、ハワイ州 (以下、ハワイ) の帰米については言及されていない。ハワイは本土とは違い戦時中は日系人の割合が多かったため、一部の人々 (日本人有力団体の幹部、宗教家、日本語学校の校長等指導的人物) しか抑留所・収容所には入れられなかった (ハワイ日本人移民史刊行委員会:1964:188)。よって、このようなハワイの特殊性を本研究では考慮に入れていくことにした。

### 調査目的

以上のような先行研究から、報告者は帰米がアメリカに帰った後どのような暮らしをしたかについて調査を行うことにした。また、戦後帰米やハワイの帰米についての情報が少なかったことから、今回の調査ではハワイの戦後帰米がアメリカに帰って来た後日本とアメリカにどのような影響を与えたかを明らかにしていくことにした。調査では、戦後帰米だけと絞らずに戦前帰米の調査も行い、主に戦後の生活を調査した。

### 調査方法・内容

調査は 2017 年 9 月 3 日から 10 日までハワイ州ホノルル市周辺で調査を行った。主にハワイ大学マノア校の Hamilton Library で資料収集を行った。そこでは、帰米について連載

した日本語新聞の記事、ハワイ大学に所蔵してある帰米のインタビュー資料、ハワイ大学の学生が書いた帰米の親に関する作文を得ることが出来た。そして、9月8日にはハワイ大学の近くにあるハワイ日本文化センターで帰米の戦時中の資料や帰米のある家族に関する資料を収集した。

また、9月6日に戦後帰米で日本語新聞ハワイ報知5代目社長A氏に約1時間20分ほどインタビューを行った。今回のインタビューでは、A氏を紹介して頂いたハワイ在住のジャーナリスト鈴木啓氏にも同席して頂き、3人で行った。インタビューではA氏の生い立ちやアメリカに帰って来た後のお話しをお聞きした。主に、【日本での生活】、【人間関係】、【日本語新聞の重要性】、【帰米であること】についてお聞きした。

### 調査・研究報告

A氏のインタビューでは、学生時代全てを日本で過ごしたことから日本に対する思い入れが強いことが見受けられた。現在でも英語より日本語の方が得意だということだった。また、帰米の中でも戦前帰米と戦後帰米には隔たりがあり、A氏はハワイに帰って来た後毎週土日に戦後帰米の集まりに参加していた。日本語新聞は日本語を報道する重要性のみならず、日系人の権益を擁護するために重要な役割を果たしていたとおっしゃっていた。戦後は戦争花嫁などの新移民が来たため、ハワイの日本語新聞は発展した。しかし、現在はハワイの日本語新聞は減っておりA氏のハワイ報知のみが残っている。A氏は長年社長としてハワイ報知を存続させ、日本語新聞を守って来た。

その他の資料では、戦後帰米は日本で進駐軍として働いている人々が多かった。ハワイに帰ってきてからは、日本語学校の教師、日本語ラジオ・テレビのアナウンサーなどの仕事に就き、茶道・華道・剣道の活動にも積極的だったことが分かった。また、帰米は日本語と英語両方話せるため、日系人連合協会といった会長に多くの帰米が就いていた。

今回の調査で戦後帰米は日本では進駐軍として働き影響を与え、ハワイでは日本語を使用できる仕事についてことから、帰米は日本での経験をハワイに帰って来た後活かし日系人社会に貢献したことが分かった。本研究では、個人の帰米を見たことにより、日本での経験をマイナスとして捉えてはいない帰米がいることが分かった。しかしその一方でハワイの帰米は日本語コミュニティの中でしか生きられなかったのではないかという疑問が浮かんだ。帰米は言語能力の違いから他の二世やアメリカ人と一緒には働けないと語っていた。

今後の研究では、帰米が戦後のハワイの日本語コミュニティでどのような影響を与えたかについて具体的に見ていきたいため、職業別（日本語新聞の記者、観光業など）の帰米の活動を見ていきたい。また、ハワイの帰米だからこそ日本語コミュニティの中で仕事を得られたのかを知るため、他の二世や本土の帰米と比べていく必要がある。